

農業と漁業

～北陸らしい国際協力を目指して～

北陸の特色をいかした
研修特集

JICAは開発途上国の国づくりを担う人材を日本に招き、それぞれの国で必要とされている分野の研修を実施しています。JICA北陸では毎年約200名の研修員を受け入れており、その研修風景の一部を写真で紹介しします。

農業編

青年研修※1アフリカ(仏語圏)
農業・農村開発

稲の育種の説明を受け興味津々。アフリカでも米は大きな興味のひとつ。

昔の日本の農村ではどんな物が使われていたのか？研修員たちは現在の日本との差に驚いたり、同じ農具があることに驚いたり。

多品種の野菜が栽培されているのを見て思わず近寄って確かめる研修員。農家に多くの質問が寄せられました。

ふどうハウスでの初めての収穫体験。試食もしてみました。やはり農業は収穫のシーズンが楽しい。

日本の酪農について、見て、触れて、食べて、飲んで五感による研修。秋の訪れを感じさせる空。広がる田んぼで収穫のシーズンを体感。

田んぼの生き物を観察。田んぼの水環境を考えるのは初めての体験。

稲刈りを通じて福井県の小学生との交流。手刈りですが慣れた手つきです。

砂の上に図を描いて定置網の話をするガンガ氏(地球の夢)。真剣そのもの。

漁業編

スリランカ南部州への定置網漁業の導入プロジェクト
(草の根技術協力海外プログラム※2)

スリランカで採れる魚。これをナタでぶつ切り！迫力があります。

とやま市漁業組合の協力で定置網のことから漁業の工程を学ぶガンガ氏。

定置網視察。富山県氷見市の酒井秀信氏(鹿渡島定置の経営者)と石川県七尾市の中川義久氏(岸端定置網組合の大船頭)の協力で実現(七尾にて)。

スリランカでいい環境を保ちながらいい漁がしたいな。

網の手入れは時間がかかる。

スリランカでの漁。すべてが人力。船を漕ぐのも人力。

定置網を張るのに最適な場所を探すための説明をするスタッフ。

※1… 青年研修：開発途上国の将来を担う青年層を対象とする18日間の集中的研修
 ※2… 草の根技術協力事業：日本のNGO、大学、地方自治体、および公益法人の団体等が企画した、開発途上国への協力活動をJICAが支援し、実施するもの。同事業の中に日本での研修事業が含まれる

海外ボランティア from 北陸

青年海外協力隊 ^{たかなり}古田 剛也 隊員 (富山県出身/野菜栽培) 

パラグアイ共和国



収穫の喜びの前で記念撮影(右が古田さん)

南米パラグアイの小規模農家で組織されている野菜生産組合「コエジュ組合」で、無(有機)農薬栽培の基本的な技術の指導・普及を行っています。そこで現地の人と生産した野菜を首都のスーパーマーケットに卸しています。無農薬栽培の新鮮な野菜は地元の人たちにとっても好評です。野菜栽培に適した土地が少ないため、小規模による多品種での、より品質の高い有機野菜の安定生産を目指して日々奮闘です。



しっかり育っています

パラグアイ共和国 基本情報

- ・面積… 40万6,752平方キロメートル(日本の約1.1倍)
- ・人口… 622万人(2008年 世銀)
- ・首都… アスンシオン(人口約52万人)
- ・民族… 混血(白人と先住民)95%、先住民2%、欧州系2%、その他1%
- ・言語… スペイン語、ガラニー語(ともに公用語)
- ・宗教… 主にカトリック(信教の自由は憲法で保障)
- ・主要産業… 農牧業(綿花、大豆)、牧畜業(食肉)、林業

国際協力を北陸の伝統文化に vol.3

団体紹介 in 北陸 

(特) コラボNPOふくい このコーナーでは、北陸3県で国際協力に取り組まれている人々を紹介していきます。

2004年に設立された「特定非営利活動法人 コラボNPOふくい」は市民等からの相談事業を通して相談者や関連団体をコーディネートし、事業を展開しています。その事業活動のひとつとして、農業分野の団体である「あぜみちの会」と協力し、2008年には青年研修・アフリカ英語圏農業・農村開発コース、2009年には青年研修・アフリカ仏語圏農業・農村開発コースを実施しました。ここに中心となった方々からのメッセージをお届けします。

“私たち3人はJICA青年研修事業を楽しんでいます！”



あぜみちの会 事務局
玉井 道敏さん

農業は
世界共通の
営み



特定非営利活動法人 コラボNPOふくい
事業パートナー 後藤 勇一さん

世界は
つながっている



特定非営利活動法人 コラボNPOふくい
理事長 牧野 安雄さん

3人寄って
グローバル
貢献